SAPPORO ATHLETICS ASSOCIATION

通算第21号(2023年第2号)



### --般財団法人**札幌陸上競技協会**



# 札幌陸協情報

発行:-₩M団法人札幌陸上競技協会広報委員会

令和5年12月25日発行

## ご挨拶

会長志田幸雄

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが5類感染症に移行し、 社会情勢も変化する中、札幌陸上競技協会は長い伝統と歴史に支えられ、大勢の競技者、 会員の皆様のご協力により無事、事業を終了することができましたことに対しお礼申し上 げます。

さて、36年ぶりに全国高校総体が札幌市厚別公園競技場で開催されました。会員の皆様 方におかけましては、非常に猛暑の中で競技役員として出席され、大会も成功裏に終える ことが出来ました。これも高等学校専門委員の皆様を中心として連日の計画、準備、実施 され、特に札幌市内高等学校の先生方、生徒の皆様のご支援、ご協力にあってのここと承 知しています。大会成功裏には、札幌陸上競技協会の皆様方のご協力、更に多くの協賛各 社、支援団体の皆様方からのご支援の賜物であり、多くの方から愛され、支えられてきた ことに深く感謝申し上げます。

札幌陸上競技協会主催・主管27大会、協力大会8大会のうち、今年度から中村宏之氏の選手育成の活躍を讃え、北海道ハイテクAC杯から名称変更し、中村宏之記念陸上大会として新たに開催いたしました。

今年度、競技会シーズン選手の皆さんは、これまでコーチの熱心なご指導のもとで一生 懸命練習し、努力を積み重ねて来たことにより、成果が十分に発揮されたと思います。

振り返りますと日本選手権大会では、城山正太郎選手(ゼンリン札幌)は男子走り幅跳び優勝、御家瀬緑選手(現住友金属→恵庭北高出身)女子100m第2位、小池祐貴選手(住友電工→立命館慶祥高出身)男子100m第3位、寺田明日香選手(ジャパンクリエトグループ→恵庭北高→北海道ハイテクAC出身)女子100mH優勝等々の活躍をし、世界陸上選手権、アジア大会で日本代表として出場し、期待に応え活躍されました。8月に開催されました全国高等学校総体(北海道インターハイ)では、立命館慶祥高校チーム男子4×100mリレーで第2位、北海道中学大会で吉田星選手(上野幌中学)が中学1,500m北海道中学記録の記録を塗り替え、全国中学大会男子3,000mで見事優勝、国体少年女子A300mH第2位で畠山このみ選手(立命館慶祥高校)など多くの選手が躍動し、今後更に多くの活躍が期待されます。

私たち一般財団法人札幌陸上競技協会から、オリンピック代表選手を一人でも多く出場を目標に、指導者(小学校・中学校・高校・大学・実業団等)の皆様と一丸となって指導をして参りました。その成果は、着実に上がりつつあります。今後も引き続き、指導者の皆様と一丸となって、選手強化の育成を図っていく所存でおります。

選手の皆さんには、陸上競技を通して沢山の感動を体験し、目標に向かって心を奪い立たせてもらいたいものです。夢に向かってあきらめずに努力してください。そして、皆さんの頑張る姿を通して、多くの人たちに元気と感動を与えてください。充実した大会での好記録達成を期待しています。次年度は、パリオリンピックです。一人でも多くオリンピックに日本代表選手として出場して頂けるよう頑張りましょう。私たち当協会は、現在置かれている北海道陸上界の厳しい情勢にあっても、正しい道を歩みますことを誓います。当協会に対しまして、今後ともご支援、ご協力、ご協賛を賜りますようお願い申し上げます。

### 2023年度 事業中間報告

専務理事 金 子 博 之

36年ぶりに札幌で開催された全国高校総体が高体連の先生方の熱意と審判等で協力した 札幌陸協会員の皆様の力で成功裏に終わるなど、大会等事業を計画通りに進めることがで きました。競技者の皆様、札幌陸協会員の皆様、後援・協賛頂きました企業・団体のご協 力に心より感謝いたします。

### 【各大会開催事業】

今年度は札幌陸協主催・主管26大会、学連審判協力大会8大会を予定通り実施しました。特に、ハイテクAC杯から大会名を変更して開催された中村宏之記念陸上競技大会は秋空の下、小学生からマスターズまで多くの競技者が参加し、好記録が生まれました。また、6月には全国高校総体のプレ大会と位置付けられた全道高校選手権大会、9月には全道中学新人大会を開催しました。

コロナ 5 類移行になっても、重要性を増した医務員について、今年度も我汝会きたひろしま整形外科病院の原先生のご協力を得て、医師・看護師を派遣して頂きました。誠にありがとうございます。

### 【大会結果と強化事業】

北海道マラソン・はまなす車いすマラソンでは、当日の暑さや雷雨という悪条件のもと、 運営上での様々な反省点や課題がありました。来年に向けて改善を重ね、より良い大会を 目指していきます。

城山正太郎選手(ゼンリン)が日本選手権にて走幅跳で優勝、世界選手権・アジア大会に日本代表として出場しました。また、全国中学男子3000mで吉田 星選手(上野幌中)が優勝、全国高校総体男子400MRで立命館慶祥高校、国体少年女子A300MHで畠山このみ選手(立命館慶祥高校)が2位など全国大会で多くの選手が活躍をしました。

強化事業は、限られた予算に中ですが強化練習会等を実施しました。

### 【選手強化育成基金「さっぽろ選手強化育成基金」】

全国大会で優勝した選手、全国高校総体で上位入賞した学校に激励金を贈呈しました。 今年度ご協力企業や本協会会員の皆様のご協力を得て、10月末現在31万円の基金増資を 行うことができました。誠にありがとうございます。

#### 【競技場整備】

2024年から最大2年間実施予定の厚別競技場大規模保全工事に伴う円山競技場の利用等について要望書を札幌市に提出しました。

今後も本協会の事業の在り方等の検討を加えながら2024年度に向け残りの2023年度の事業を進めていきます。何卒、よろしくお願い致します。

### 記録室 全国大会入賞者等

- ■第107回日本選手権(大阪・ヤンマースタジアム長居 6/1~6/4)
  - 〇男子走幅跳 優勝 8m11(+2.1) 城山正太郎 (ゼンリン)
- ■第25回アジア陸上競技選手権大会 (タイ・パソコク スパチャラサイ国立競技場 7/12~7/16)
  - 〇男子走幅跳 第6位 8m01(+1.3)城山正太郎(ゼンリン)
- ■第50回全日本中学校選手権 (愛媛・愛媛県総合運動公園陸上競技場 8/22~8/25)
  - 〇男子3000m 優勝 8.35.32 吉田 星(札幌上野幌3)
- ■特別国民体育大会

(鹿児島・鹿児島県立鴨池陸上競技場 10/13~10/17)

- ○∮4A女子300mH 第 2 位 42.45 畠山このみ(立命館慶祥高 2)
- 〇旗男子110mH 第 8 位 13.85(+3.4)
  - 高橋 佑輔(道ハイテクAC) \*^男子100~~ 第5位 10 51/+1
- 〇烁A男子100m 第5位 10.51(+1.1) 小川 蒼生(立命館慶祥高3)
- ■第17回U18陸上競技大会 第54回U16陸上競技大会 (愛媛・愛媛県総合運動公園陸上競技場 10/20~10/22)
  - OU18女子300mH 第5位 43.28 畠山このみ(立命館慶祥高2)

- ■2023日本学生個人選手権 (神奈川・レモンガススタジアム平塚 4/21~4/23)
  - 〇女子100m 第 4 位 11.88 (+1.2) 工藤聖莉奈 (日体大3)
- 第76回インターハイ(北海道・札幌市厚別公園競技場 8/2~8/6)
  - 〇男子4×100mR 第2位 42.29 立命館慶祥

水野琉之介(3)

増川 海斗(2)

山内 翔馬(3)

小川 蒼生(3)

- 〇男子4×400mR 第 4 位 3.10.58
  - 立命館慶祥

増川 海斗(2)

福村 優大(2)

山内 翔馬(3)

水野琉之介(3)

- 〇男子100m 第 5 位 10.96 (-2.7)
  - 小川 蒼生(立命館慶祥3)

〇男子3000SC 第5位 8.47.34 キプゲノ ケネス(札幌山の手2)

〇女子4×100mR 第7位 46.82

立命館慶祥

志田 美月(2)

山崎 桜(2)

神田 琉杏(3)

杉山 晏菜(3)

## 城山正太郎が初V「ひとつ殻破るきっかけに」 3連覇狙った橋岡優輝破る 男子走り幅跳び



<陸上:日本選手権>◇第3日◇3日◇大阪・ヤンマースタジアム長居◇男子走り幅跳び決勝

男子走り幅跳びで日本記録の8メートル40を持つ城山 正太郎 (28=ゼンリン) が、日本選手権で初優勝を 飾った。

5回目までは7メートル82が最高だったが、6回目の跳躍で8メートル11を記録。3連覇を狙った橋岡優輝に5センチ上回り、念願のタイトルをとった。城山は「日本選手権は2位が2回で、とりたいと思ってた」と喜び「ひとつ殻を破るきっかけになった」と手応えを口にした。橋岡は8メートル06で2位。セイコーゴールデングランプリで世界選手権の参加標準記録(8メートル25)を上回る8メートル26を記録していた吉田弘道は、4回目以降に進む上位8人に残らず敗退した。

日本陸上競技選手権大会 男子走り幅跳び 8メートル11で優勝した城山正太郎(撮影・藤尾明華)

日刊スポーツ新聞社様ご提供 (https://www.nikkansports.com/sports/athletics/news/202306030001353.html)

### 立命館慶祥が銀…頂点には0秒18届かず…全国高校総体陸上男子400メートルリレー



◇全国高校総体◆陸上(4日、札幌・厚別公園競技場)▽男子400メートルリレー 〈1〉市船橋40秒11〈2〉立命館慶祥(水野、増川、山内、小川)40秒29

陸上の男子400メートルリレー決勝で、決勝初進出の立命館慶祥(水野琉之介〈3〉、増川海斗〈2〉、山内翔馬〈3〉、小川蒼生〈3〉=〈〉数字は学年)が40秒29で準優勝し、この種目で道勢初メダルを獲得した。北海道栄は7位だった。女子400メートルリレー決勝は、旭川志峯が46秒53で4位入賞、立命館慶祥が46秒82で7位だった

3年計画で目指してきた全国の頂点に、あと一歩届かなかった。男子400メートルリレー決勝で、優勝した市船橋(千葉)に0秒18差で2位となった立命館慶祥。ゴール後、トラックにうずくまったアンカー小川は「バトンを受けたあと、前の選手を懸命に追ったが届かなかった。みんなに申し訳ない」と悔し涙を見せた。走り慣れた会場で懸命の走りは見せた。全道高校の2走から1走に抜てきされた水野は

「得意のスタートダッシュで、流れをつくりたかった」と果敢な走り。2走・増川が切れのいいキ

ックで上昇、3 走・山内も巧みなコーナーワークを見せ、前日の100メートルで5位のアンカー 小川も力走。この種目道勢初のメダルを決めた。

日裏徹也監督 (41) はバックストレートの強い向かい風を想定し、安全にバトンが渡るよう中継位置を少し詰めるよう指示。「自分のさい配ミス、伸び伸び走らせていたら、結果は違ったかもしれない」と詫(わ)びた。

同監督が、今年の北海道総体での全国制覇を目指し、選手を勧誘。「局地戦」のスローガンのもと、自分が最も得意な種目、分野で力を発揮できるよう意識付け。チーム内競争もあおり、全体の底上げを図ってきた。小川は5日の200メートル、他の3人も1600メートルリレー(決勝は6日)に出場予定。「残りレースも"局地戦"に臨み、全国優勝に挑戦したい」と北の強豪軍団の心意気を披露した。(小林 聖孝)

報知新聞社様ご提供(https://hochi.news/articles/20230805-0HT1T51012.html?page=1)

## 吉田 選手(札幌市立上野幌中学校)

祝 愛媛全中 男子3000m優勝 北海道勢として初制覇 記録 8.35.32

2023年8月23日 愛媛県総合運動公園陸上競技場

全道中学陸上にて 男子1500m北海道中学新記録 記録 3.58.55

2023年7月27日釧路市民陸上競技場







(写真は吉田牧人様ご提供)

### 第11回中村宏之記念陸上競技大会を開催いたしました。

~ ご参加いただいた皆様、本大会ご協賛各社様、

大会関係者様、心より感謝申し上げます。~

令和5年10月9日(月・祝)に札幌市厚別公園競技場にて、昨年度まで行っていた北海道ハイテクAC杯陸上競技選手権大会を名称変更し、中村宏之記念陸上競技大会として引き続き大会を開催しました。大会では天候にも恵まれ、直線競技はすべて逆走にて実施いたしました。例年どおり、小学生種目からマスターズ種目までのカテゴリーによる大会を開催し、すべてのカテゴリーのアスリート育成に寄与する大会となりました。大会を終了に際しまして、多くの皆様にご参加及び大会運営にご協力をいただき誠に

### 〇最優秀選手賞

(札幌陸上競技協会会長賞)

ありがとうございました。

<mark>中学女子400m・800m 渡辺 栞弓 札幌・大谷中 400m 1.01.43 800m 2.17.61</mark>

〇優秀選手賞

(日刊スポーツ新聞社賞)

<mark>高校・一般女子100mH 高橋友紀子 道北・DohokuAC 14.01 (+1.2)</mark>

(報知新聞社賞)

中学男子800m 吉田 裕心 札幌・TONDEN.RC中 1:59.31

(読売新聞社賞)

高校·一般男子1500m 泉亭 拓海 札幌·TONDEN.AC 4:09.95

(北海道新聞社賞)

高校・一般男子400m スコット リアム音央 苫小牧・北海道栄高 48.57



(最優秀・優秀選手表彰)



(中学女子 | 00 m A 決勝)

## 小学生陸上競技クリニック開催報告

昨年度より、当協会指導者協議会によって、定期的に全道の小学4年生以上を対象にジュニア選手育成、競技力向上を目的として小学生陸上競技クリニックを開催しました。2016年より始めた取り組みは、今年で通算19回目となりました。全道各地よりより、多くの小学生の皆様に参加していただき、お礼申し上げます。

《指導者》一般財団法人札幌陸上競技協会指導者協議会中村宏之(指導者協議会代表)、北風沙織(北翔大学監督)、仁井有介(AAAヘッドコーチ)、馬場友也(新札幌陸上クラブ指導責任者)、京谷萌子(北海道ハイテクAC選手)、島田雪菜(北海道ハイテクAC選手)、今井里砂(AAAコーチ)、加賀雅之(新札幌陸上クラブコーチ)等々

- ○令和5年(2023年)4月22日(土)
- 令和 5 年 (2023年) 8 月 11 日 (金·祝)
- ○令和5年(2023年)12月23日(土)

札幌市厚別公園競技場 札幌市円山陸上競技場 札幌市厚別公園競技場



4月22日開催クリニック①



4月22日開催クリニック②



12月23日開催クリニック①



12月23日開催クリニック②



12月23日開催クリニック③



山崎製パン株式会社様より協賛品

## 2022年度 札幌陸上競技協会表彰 功労章·審判功績章·指導者章



(2023年9月10日 第88回札幌陸上競技選手権大会にて表彰)

## 【訃報】顧問 藤井 英嘉 様

当協会顧問であった藤井英嘉氏が、令和5年(2023年)11月30日にご 逝去されました。

同氏は、東京教育大学(現 筑波大学)卒業後、北海道伊達高等学校教諭として着任し、その後、北海道教育委員会を経て、昭和43年(1968年)北海道教育大学教育学部講師として、着任され、助教授・教授となり、平成7年(1995年)北海道教育大学学長に就任いたしました。北海道教育大学退官後は、びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部教授・学部長、大阪成蹊女子高等学校長を経て、札幌ベルエポック美容専門学校長として日本の教育界並びに陸上界に多大な貢献を果たされました。

ここに、故人を偲び哀悼の意を表します。

\_\_\_\_\_ 許 報 \_\_\_\_\_ この度、当協会にご功績のあった方がご逝去されました。謹んでご冥福 をお祈りいたします。

前強化委員長・元理事 堤 裕之 禄 (59歳) 4月21日ご逝去

発行 - 機關試札幌陸上競技協会 広 報 委 員 会

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番5号 札幌市中島体育センター内 電話・FAX : (011)532-2471 https://jaaf-sapporo.jp/